

小児科後期研修医募集

済生会川口総合病院 小児科では、後期研修を希望する医師を募集しています。

卒後年数や性別などには一切こだわりません。

小児科専門医をすでに取得した方で、家庭の事情などで当院での勤務を希望される方もご相談ください。

また、既婚・育児中・研修途中からの参加などの事情に対しては、きめ細かく対応いたします。実際に複数の女性医師が、妊娠・出産・育児を行いながらイキイキと働いています。

当院の最大の魅力は症例の豊富さです。

中でも小児科は小児の総合診療科として運営しており、年間 1000～1200 名の入院があります。業務は主として入院診療にシフトしているため、一般小児の入院の 9 割は近隣の医療機関からの紹介で占められています。周辺の医療機関はもとより、埼玉県内で主だった小児医療を行う病院との連携もスムーズです。小児科専門医となるために必要な症例の経験はもちろんのこと、幅広く一般小児医療を体験することが可能です。

また、設立母体が済生会であることから、二十数年前より訪問看護や在宅医療に取り組んでおり、一般の病院では経験できないような社会福祉関係の仕事にも深く関わっています。

平成 16 年に新病院が落成してからは高度先進医療機器がさらに使いやすくなり、新医師臨床研修制度（初期研修医は各学年 12 名ずつ）への参加と相まって、活気に溢れる病院です。

当院での研修中（あるいは終了後）に、大学病院などのより高次の医療を中心とする施設に移りたいなどの希望がある方には、可能なかぎり協力しています。

埼玉県内にはさまざまな大学と関連をもつ施設が多数あり、人的なつながりを通して、情報を集めたり紹介したりということが可能です。当院のような地域に根ざした臨床研修病院こそ、自らの進路をじっくりと考える場を提供できるのではないかと考えています。

また、3 年間の後期研修期間中に、他のより高度な医療を提供する施設での研修を行うことも可能です。そのことにより、一つの病院の色に染まらず、より広い視野で小児医療を修得することができるようになると考えています。

後期研修のための病院を探す若い医師たちにお伝えしたいのは、入れ物の良しあしに惑わされず、その中身としての自分をどれだけ鍛えてくれる病院であるか見極めることです。

質の高い症例と、それを診療する医師の心意気が、若い医師を育てるのだと確信しています。

済生会川口総合病院は、完璧な病院でも、有名な病院でもありません。しかしながら、小児科に限らず優秀な臨床医と熱心なスタッフが日々努力を重ね、問題点を克服するべく働き続けている病院です。ご一緒に働く機会が与えられれば、必ずや有意義な経験を共有することができると信じております。

もし、当院小児科での後期研修に興味がありましたら、ぜひ総務課人事担当までご連絡下さい。

また、後期研修が終了し、専門医（あるいは認定医）を取得した小児科医の方でも、現在の定員にこだわらず採用を検討いたします。

(2013 年 5 月 29 日)

診療科	小児科
学会認定	日本小児科学会小児科専門医研修施設
特長	<p>地域に密着し、理想に近い形で病診連携が実践されている。</p> <p>二次救急を主体として入院治療および専門的な外来診療に力を入れている。</p> <p>一般病院の小児科として、幅広い医療を提供している。また、症例報告や臨床的統計など県内外の学会活動も積極的に行っている。</p>
プログラム概要	<p>現在は当院単独での研修プログラムとなっているが、近い将来には県内の二次および三次病院の小児科と連携した人事交流を計画している。</p> <p>複数の施設で研修することにより、それぞれの疾患や症例を異なる切り口から経験し、より幅広い視野で小児医療を体得できるよう配慮したい。</p> <p>乳児院が隣接しており、他の医療機関では経験できない児童福祉関連の症例を多く研修することができる。</p> <p>また、3年間の研修中に必ず PALS を受講することを義務付けている。</p>
主な症例 (件数)	<p>小児科入院として年間1,200例前後で、いわゆる common disease はもとより稀な疾患や難治例など症例はきわめて豊富である。</p> <p>毎年、年間統計を作成しており希望者には前年の統計をお送りする。</p>
研修指導医数	小児科専門医 6名 (常勤医)